



ショートコメント

★★★

Data 2023-45

監督・脚本：ウィル・メリック
クニック・ジョンソン

原案：セヴ・オハニアン&ア
ニーシュ・チャガンテイ

出演：ストーム・リード/ヨ
アキム・デ・アルメイダ
/ニア・ロング

search / #サーチ 2

2023年/アメリカ映画

配給：ソニー・ピクチャーズエンタテインメント/111分

2023 (令和5) 年4月15日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

👁️👁️ みどころ

“100%すべてPC画面の映像で展開するサスペンス・スリラー”たる『search サーチ』（18年）は、全く新しい映画体験。PCが苦手な私でも二転、三転、四転、五転する物語のスリルとサスペンスを楽しむことができた。しかし、それがどんどん進化していくと・・・？

PC好きの若者たちの本作についてのレビューは称賛の嵐。その解説は詳しいが、残念ながら私にはチンプンカンプン・・・。現在の映倫の審査基準はG、PG12、R15+、R18+の4区分だが、新たに「70（75）歳以上不向き」の基準を設けてくれないと・・・。

疲れた！疲れた！近い将来公開されるであろう『サーチ3』は、私にはもうノーサンキュー！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆「全く新しい映画体験＝100%すべてPC画面の映像で展開するサスペンス・スリラー」として、2018年のサンダンス映画祭観客賞を受賞した『search サーチ』（18年）は、パソコンやITが苦手な私でも、二転、三転、四転、五転する物語のスリルとサスペンスを楽しむことができた（『シネマ43』99頁）。

『search / #サーチ2』と題した本作は、その続編ではないが、似たようなもの・・・？失踪した一人娘を父親がパソコンで追った第1作と同じように、本作も、失踪した母親の行方を娘のジューン（ストーム・リード）がデジタルデバイスを駆使して追うものだし、大スクリーン上に映るパソコンの処理によってストーリーが進んでいくのも同じだ。

◆もっとも、私は第1作でもパソコン上の処理がほとんどわからなかったから、本作はノーサンキューと思っていた。しかし、新聞紙評の一つに、「画面は最新鋭のデジタルツールで埋め尽くされる一方、楽しませ方としてはスリラー映画としてのクラシカルな手法を踏襲しているので、パソコンが苦手な方もご安心を。さまざまに張り巡らした伏線と、その

回収のもたらす快感。叙述トリック的などんでん返しの驚き。コロンビアの仕事代行サービスの中年男性との間で醸成される、疑似父子のような関係性の感動。そして、ラストの痛快な逆転劇——。」とあったので、「それならば！」と決意した。しかし、パソコン上の処理が複雑になり、ストーリーが複雑になると、半分お手上げ状態に。

◆本作については「カラクリシネマ」という「映画レビューブログ」があったので、それを一生懸命読んだが、すごい人はいるものだ。あの映画から、ここまでのパソコン上の処理が理解できるなんて！

このレビューでは「セキュリティ意識についても加味しながらストーリーを解説する」とした上で、Q1. コロンビアの失踪事件をどうやって探し出したのか、Q2. グレイスがコロンビアにいないことをどうやって突き止めたのか、Q3. ラストの結末：どうやってジューンは助かったのか？に分けてストーリーを解説してくれている。ところが、その解説内容自体のレベルが高すぎて私にはほとんどチンプンカンプン。映倫の審査基準は目下、G、PG12、R15+、R18+の4区分だが、こんな映画が次々と登場している現状に照らせば、「70歳（75歳）以上は不向き」という新基準を設けてもらいたいものだ。

◆本作の原題は『Missing』（行方不明）だから、邦題もその方が良かったはず。だって、その方が、本作のストーリー展開にぴったりだから。本作については、前述したレビューの他さまざまな（若手？からの）レビューがある。その一つが、「シネマンドレイク」の記事「タイトルは『Missing』じゃダメなの？」で、「全編デジタルプラットフォーム画面」によるストーリー展開の面白さを伝えている。その冒頭には「その動画ファイルをトリミングして「最後の家族」とファイル名を変えて移動させ、アカウント削除。そのうえで「For June」と書かれたフォルダにしまうパソコンのカーソル・・・。」と書かれているが、私には何のことかサッパリ！しかし、「スリルの中にもしっかりユーモアも」「こういう人間臭い仕草の積み重ねがこの『全編デジタルプラットフォーム画面』という、下手するととても機械的な映画製作になりかねないものに、感情的なドラマ性を与えているのだと思います。」と書いているから、さすがに今ドキの若者の、本作についての理解度はすごい。

第1作は、父親が子供を探す物語だったが、本作は10代の娘が母親を探す物語だから、必然的にデジタルプラットフォームを使い慣れている世代によるパソコン操作になる。そのため、その操作テクニックがメチャ速いうえ、情報が流れまくることになるから、字幕を読むのがとにかく大変になる。近時のハリウッドや香港、韓国のド派手なアクションも、動体視力が衰えた70歳代の老人には見づらいが、本作に見るPC処理のスピードもそれは同じだ。頻繁に変わっていく字幕を追うだけでも、疲れること、疲れること……。きっと近い将来『サーチ3』が公開されるだろうが、私にはそれはもうノーサンキュー。

2023（令和5）年4月16日記